

# リーダーシップを發揮しよう

帝京大学大学院  
公衆衛生学研究科教授

福田 吉治

この原稿を書いているのは10月初旬で、ラグビーワールドカップで日本が予選を突破し、ベスト8に入ることができますかで、盛り上がっています。原稿が世に出る頃には、結果が出ているはずです。

スポーツはなんでも観ますが、最近のお

気に入りがラグビーです。これは、私が帝京大学に所属していることに関係しています。ご存じの方もいるでしょうが、帝京大学のラグビー部はとても強い。大学選手権9連覇、3年空けて現在2連覇中です。そ

す。そして、岩出前監督のもとから、姫野キャプテンなど、次のリーダーが生まれたが手を抜くことなく、チームとして戦うことが求められます。そして、それをまとめるのがリーダーであるキャプテン。今回は、帝京大学出身の姫野選手です。

リーダーシップはスポーツだけではなく、ビジネスにおいても重要で、リーダーシップを養うための教育も盛んです。書店にはリーダーシップに関する本がたくさん並んでいます。それだけ、リーダーシップへの関心が高く、また、リーダーシップに悩んでいる人が多いということでしょう。

帝京大学のラグビー部が強くなつたのは岩出雅之前監督(現帝京大学スポーツ局長)の功績によるところが大きいとされていま

す。これは応援のしがいがあるといつものですが、ラグビーを観ていて思うのは、チームシッ

プとリーダーシップの大切さです。他のス



福田 吉治

YOSHIHARU FUKUDA

### プロフィール

出身地 大分県

・帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 研究科長・教授

・帝京大学産業環境保健学センター センター長

#### 【略歴】

平成3年熊本大学医学部卒業。平成10年熊本大学大学院医学研究科修了(社会医学専攻)。  
国立医療・病院管理研究所(医療政策研究部)、東京医科歯科大学医学部(公衆衛生学講座)、国立保健医療科学院(疫学部)を経て、平成22年に山口大学医学部地域医療学講座教授に就任。平成27年から帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授、平成30年には同研究科長。

#### 【専門分野】

公衆衛生全般。特に健康増進・健康づくり政策・健康教育、社会疫学(健康の社会格差、健康の社会的決定要因)、地域医療・保健・産業保健など。近年では行動経済学で用いられる「ナッジ理論」に基づいて公衆衛生施策を指導。

#### 【学会・委員】

国民健康保険中央会 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会  
国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員会  
委員(東京都・埼玉県)など

#### 【主な著書】

「ナッジを応用した健康づくりガイドブック」共著2023年 帝京大学大学院公衆衛生学研究科  
「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)からの教訓—これまでの検証と今後の提言」  
共著 2021年 大修館書店  
「健康行動理論による研究と実践」共著 2019年 医学書院  
他論文多数

リーダーシップの考え方いろいろありますが、最近の主流は、"だれでもリーダーシップを発揮できる"というものです。チームの中で、リーダーの地位にある人は、リーダーとしてのリーダーシップ、リーダーに従ういわゆるフォロワーは、フォロワーとしてのリーダーシップが発揮できるというものです。

ラグビーでは、リーダーだけではなく、すべてのメンバーが、役割に応じてリーダーシップを発揮する必要があるのです。自分はリーダーシップをとるような人間ではないという人がいますが、リーダーシップもいろいろな形があり、それぞれが自分の個性を活かしたリーダーシップが発揮できるのです。

さて、皆さんの職場はいかがでしょうか。国保部門では、データヘルス計画などで事業が増えて、事務職と専門職あるいは他部門との連携が求められ、リーダーシップがますます重要になっています。ぜひ、リーダーシップを学び、実践してみましょう。

記事提供 社会保険出版社